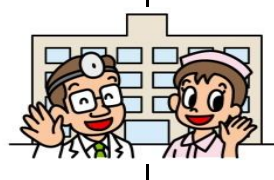


病棟：様

入院診療計画書
治療方針：胃切除術 B Ver.1

年 月 日
特別な栄養管理の必要性：有・無
推定される入院期間：9～16日間

主治医： 担当看護師： 患者様サイン欄： ご家族サイン欄：

	入院日～手術前日	手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	手術後1日目	手術後2日目	手術後3日目	手術後4日目	手術後5日目	手術後6日目～退院日
達成目標	・手術の必要性を理解し、不安なく手術を受けられる		・疼痛コントロールが実施できる	・病棟内歩行ができる	・術後合併症の兆候がみられない		・食後の腹部傷病がみられない	→	・退院後の留意点について理解できる。→
安静度 リハビリ 退院	・病棟内を自由に歩くことができます。		・症状に合わせて体を動かしていきます。	・初回歩行時は、看護師が付き添います。その後は自由に歩けます。 ・回復にむけてなるべく体を動かしていきます。 ・部屋を移動します。	・院内を自由に歩くことができます。			→	・症状を確認し、問題がなければ退院ができます。
食事	・昼食までソフト食が摂れます。 ・水分(水、茶)は摂れます。	午前手術なら朝6時まで 午後手術なら朝10時まで 水分は摂れます。		・手術後、医師の許可が出てから氷を口に含むことができます。むせなければ、水を飲むことができます。	・昼食からシトラスウォーターが摂れます。	・昼食から流動食が摂れます。	・昼からソフト食が摂れます。	・昼から全粥食が摂れます。	・手術後6日目に栄養指導があります。 ・手術後7日目より常食が摂れます。
注射・薬剤		・医師から指示された薬のみ、少量の水で内服することができます。	・点滴があります。 ・痛み止めと胃薬を飲みます。			→			
検査				・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。		・胸部と腹部のレントゲンがあります。 ・採血があります。 ・場合によっては造影検査もあります。		・採血があります。	
処置	・看護師がお臍のそうじをします。	・手術室に行く前に、全ての衣類を脱ぎ、T字帯、弾性ストッキング、術着を着用します。	・マスクを着け、酸素吸入を行います。 ・手術室で痛みどめの管を背中に入れます。 ・心電図モニターをつけます。 ・鼻から管が入っています。 ・お腹に管が入っています。	・歩行後、弾性ストッキングを外します。 ・心電図モニターを外します。		・背中痛みどめの管を抜きます。 ・お腹に挿入された管を抜きます。			
清潔	・シャワーをしていただきます。 ・手術に備え、歯磨きをしてください。	・朝の歯磨きを必ずしてください。		・看護師が蒸しタオルで体を拭きます。		・背中痛みどめの管が抜けた後、シャワーができます。		→	→
排泄	・歩いてトイレに行くことができます。	→	・手術室で尿を出すための管を入れます。	・歩くことができれば、尿の管を抜きます。 ・尿の管を抜いた後は、歩いてトイレに行くことができます。(尿の管を再度いれることもあります。)	・歩いてトイレに行くことができます。	→		→	→
患者様及び ご家族への説明	・麻酔科医師による手術前の診察があります。 ・看護師が入院後の生活、入院・手術に必要な物品の説明をします。		・医師から手術結果についての説明があります。		・パンフレットの説明があります。			・医師が退院について説明します。 ・薬剤師が退院後の薬の内容と管理について説明します。 ・看護師が退院後について説明します。	

注1) 病名及び治療内容等は、入院時に考えられるものですので、検査・治療を進めていくにしたがい変更することがあります。

注2) 入院期間、表記の日時については入院時での予定です。